

『学科専攻別3つのポリシー』

〈学位授与方針〉〈教育課程の編成・実施方針〉〈進学生・編入学生の受け入れ方針〉

1. 人間関係学科の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

人間関係学科では、社会が大きな転換点を迎える中、「現代社会とそこに生きる人間」の諸問題について、社会調査の方法論を用いて、多角的な視点から実証的に分析し、広く発信する能力を涵養し、社会に貢献できる人材の育成を目的としています。

1. 現代社会の諸問題に対して、理論を適用して解明していくトップダウンと、現場から問題を上げるボトムアップの両方の視点を持ち、問題の構造を的確に理解し、判断する力。そのための知的好奇心、社会に対する関心、幅広い知識と多様な視点。
2. 自らフィールドに赴き、現場でデータを収集するバイタリティと、コミュニケーション・スキル。調査自体が現場に改善をもたらすアクション・リサーチを含む。そのために必要な社会調査の基本的スキルや、対人調査に関連する倫理意識。
3. 収集したデータを客観的に分析し、新しい知見を得る力。質的データと量的データをそれぞれ分析する能力。
4. 自律と他者との協働に価値を置き、社会に積極的に関わっていく行動力、表現力、指導力。

『学科専攻別3つのポリシー』
〈学位授与方針〉〈教育課程の編成・実施方針〉〈進学生・編入学生の受け入れ方針〉

2. 人間関係学科の教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）（2022年度以前入学者用）

人間関係学科には「心理学」「社会学」「文化学」の3つのアプローチがあります。これらは独立したものではなく互いに連関しており、多様な視点から「人間と社会」について探求していきます。また、探求するための「社会調査」のスキルを専門的に修得し、全員が卒業論文では社会調査を実践します。社会調査の専門家であることを示す「社会調査士」の取得カリキュラムも導入しています。

2年次では、まず「心理学」「社会学」「文化学」の各アプローチの概論7科目を履修し、社会を探究していく学問的視座の基礎を習得します。社会調査についても、「社会調査入門」「社会調査の技法」「社会統計学」「質的研究法」といった基礎的な方法論を学び、3年次以降の調査の実践に備えます。また、2年次生の演習（「共通演習」）では、過去の卒論や実習報告書を教材として、社会調査に関連する各授業の復習をしながら、グループワークで研究全体の流れを確認し、プレゼンテーションのスキルも身に着けます。

3年次では、「心理学」「社会学」「文化学」の概論を土台として、その中で研究の軸を置く学問分野を決めてメンターを選び、卒論に向けて個人指導が始まります。また、2年次までに座学で学んできた社会調査の方法論を踏まえて、それらを実践していく段階に入ります。「データ分析の基礎」「多変量解析法」といった量的データの処理を高度なレベルで学びつつ、「社会調査実習」では、テーマの選定、先行研究のレビュー、仮説の設定、フィールドワークや対人調査などの実査を通じたデータの収集、分析と考察、報告書の執筆まで、卒論と同じ流れをグループワークで経験します。ここで、一通り研究の実践を学ぶことで社会調査の手法や論文の執筆といった基礎的なスキルを修得し、4年次の卒論に備えます。

4年次では、これまでに学んできた専門的な知識と、社会調査のスキルを融合する形で、学科の学びの集大成として卒業論文が位置づけられています。年度末の卒論発表会では、各自が卒論の研究についてプレゼンテーションを行い、教員や学生との質疑応答を経てより成長します。

なお、人間関係学科では社会調査士の認定科目を開講しており、これらを履修すれば、卒業時に社会調査士を取得することができます。

『学科専攻別3つのポリシー』

〈学位授与方針〉〈教育課程の編成・実施方針〉〈進学生・編入学生の受け入れ方針〉

2. 人間関係学科の教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）（2023年度以降入学者用）

人間関係学科には「心理領域」「社会領域」「文化領域」の3つのアプローチがあります。これらは独立したものではなく互いに連関しており、多様な視点から「人間と社会」について探求していきます。また、探求するための「社会調査」のスキルを専門的に修得し、全員が卒業論文では社会調査を実践します。社会調査の専門家であることを示す「社会調査士」の取得カリキュラムも導入しています。

2年次では、まず「心理領域」「社会領域」「文化領域」の各アプローチの概論3科目を履修し、社会を探究していく学問的視座の基礎を習得します。社会調査についても、「社会調査入門」「社会調査の技法」「社会統計学」「質的調査法」といった基礎的な方法論を学び、3年次以降の調査の実践に備えます。また、2年次生の演習（「人間関係共通演習」）では、社会調査に関連する各授業の復習をしながら、グループワークで研究全体の流れを確認し、プレゼンテーションのスキルも身に着けます。

3年次では、「心理領域」「社会領域」「文化領域」の概論を土台として、その中で研究の軸を置く学問分野を決めてメンターを選び、卒論に向けて個人指導が始まります。また、2年次までに座学で学んできた社会調査の方法論を踏まえて、それらを実践していく段階に入ります。「データ分析の基礎」「多変量解析法」といった量的データの処理を高度なレベルで学びつつ、「社会調査実習」では、テーマの選定、先行研究のレビュー、仮説の設定、フィールドワークや対人調査などの実査を通じたデータの収集、分析と考察、報告書の執筆まで、卒論と同じ流れをグループワークで経験します。ここで、一通り研究の実践を学ぶことで社会調査の手法や論文の執筆といった基礎的なスキルを修得し、4年次の卒論に備えます。

4年次では、これまでに学んできた専門的な知識と、社会調査のスキルを融合する形で、学科の学びの集大成として卒業論文が位置づけられています。年度末の卒論発表会では、各自が卒論の研究についてプレゼンテーションを行い、教員や学生との質疑応答を経てより成長します。

なお、人間関係学科では社会調査士の認定科目を開講しており、これらを履修すれば、卒業時に社会調査士を取得することができます。

『学科専攻別3つのポリシー』
〈学位授与方針〉〈教育課程の編成・実施方針〉〈進学生・編入学生の受け入れ方針〉

3. 人間関係学科の進学生・編入学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）

人間関係学科では、社会調査の方法論を用いて、社会と人間について研究を行います。そのためには、入学者には、研究の視点と社会調査スキルの土台となる素養として、以下の4点を求めます。

1. 人間や社会に対して関心があり、日常生活の何気ない場面に埋もれている研究の芽に気づく視点が前提となります。そのためには、日ごろからあちこちにアンテナを張り、さまざまなメディアから情報を豊富に得てください。
2. 文献の読解、調査の実施のために、国語や現代文のみならず、図表の読解やデータ処理を行う上で、統計学の素養も求められます。統計学については、入学後に初歩から指導しますが、高校までに機会があれば修得することを推奨します。または、高校までに挫折した場合でも、もう一度、新たな気持ちで初歩から学び直すという勤勉な姿勢が望ましいです。
3. 一部の調査法や分析方法を除いて、学科生のほぼ全員が対人調査を実施することから、対人調査の倫理として、コミュニケーション・スキル、礼儀作法や社会常識は、社会人と同等に求められます。誰とでも良好なコミュニケーションを構築できるよう、課外活動、学外活動などを通じて、さまざまな属性の人との交流を経験することが望ましいです。
4. どの方法論でも自分でデータを収集しますので、現場に出ていく行動力やバイタリテイが求められます。

編入学生についても、アドミッション・ポリシーは上記と同様に考えています。